

**「中名田公民館」が
第61回全国公民館優良賞を受賞**

中名田地区長期基本構想計画に
基づいたまちづくり

中名田地区は、65歳以上の高齢者の占める割合が高く、中名田公民館では、高齢者の生きがいづくりを支援する事業に取り組んでいます。

平成15年1月から、公民館を中心に地域の農家が連携。安心安全な野菜を小学校に届ける独自の取り組みを始め、今では、地場産食材の供給率が80%近くにまで達しています。

このような公民館を中心とした食材供給システムは「中名田方式」と呼ばれ、市内15小中学校のうち、現在9校がこの方式を採用しています。



11/13 中名田保で焼きイモ

10月のイモ掘りで収穫したサツマイモを使い、焼きイモ大会が行われました。園児らは、水分を含ませた新聞紙とアルミホイルでサツマイモを包み火の中へ。ワクワクしながら待つこと40～50分。おいしそうな焼きイモが出来上がり、全員でいただきました。

第7回「杉田玄白賞」「奨励賞」受賞者決定

●杉田玄白賞

かわしま まひと
川島 真人 さん (大分県中津市・64歳)



「蘭学史と食文化について」

1981年、大分県中津市に川島整形外科病院を開業以来、蘭学と食文化に関する研究を重ねてられました。中でも、「ターヘル・アナトミア」の翻訳を共同で行った前野良沢や杉田玄白に関する研究に情熱を注がれ、「蘭学の泉ここに湧く」ほか数多くの著書を発行されています。

村上医家史料館、大江医家史料館(ともに中津市)の立ち上げにも中心的役割を果たされ、医食同源の思想を基本に、蘭学勉強会などで当時のオランダ正月料理や薬膳料理を再現し、市民へ広く紹介する活動にも取り組まれています。

また、6年間にわたり中津市医師会長、健康増進大会会長として、食生活改善や生活習慣病の予防活動を推進されています。

●杉田玄白賞奨励賞

よりふじ とおる
依藤 亨 さん (京都市・51歳)



「乳幼児・小児における
ビタミンD欠乏状態の現状と、その健康に
及ぼす影響」

正常な新生児1,120人の骨の状態を1年をかけて調べられ、うち20%の骨軟化を示した児が血中ビタミンD欠乏の状態にあることを証明されました。特に、母乳栄養児にその割合が高いことなどから、現代の若い母親がビタミンDの欠乏した危険な状態にある可能性を見いだされました。

乳幼児や小児におけるビタミンD欠乏状態の現状と、その健康に及ぼす影響を検討され、望ましい食生活・ライフスタイルを提言されています。

また、ビタミンD欠乏状態の指標となる検査の保険適応化にも努力しておられます。



ふおとにゆうす
PhotoNews

●身近な話題をお知らせください! 市長室 ☎53・1111 内線325

10/30 「若狭中央地区」が開通

県が、平成15年度から整備してきたふるさと農道「若狭中央地区」(1,140m)が開通し、関係者約30人が通り初めなどをして完成を祝いました。農道は、太興寺の国道27号と東市場の県道小浜上中線を結ぶもので、高架橋でJR小浜線と立体交差しています。同農道の開通により、若狭梅街道と若狭西街道間の移動の利便性が高まりました。



11/8 ゾウ上陸再現パレード

1408年、日本で初めてゾウが上陸した内外海地区。これを記念して、内外海小児童や地区住民ら約40人が、当時の再現衣装を着てゾウ(体長250cm、高さ180cmの作り物)を引き、内外海小前から甲ヶ崎のゾウつなぎ岩までをパレードしました。参加者らは、600年前に思いを巡らせながら、約1.5kmをにぎやかに歩きました。



11/3 3市町住民団体が連携

琵琶湖若狭湾快速鉄道の実現へ向け、小浜市、若狭町、滋賀県高島市の住民団体から15人が、高島市商工会の地域振興イベント「おいでやす近江今津」に参加しました。昨年から今年にかけて、高島市と若狭町に住民団体が発足。初めて合同でパネル展示やチラシの配布を行い、訪れた高島市民や観光客に実現への協力を呼びかけました。

